

五感で感じる体験型テラス

1) 施設名(用途)	栗ヶ岳世界農業遺産・茶草場テラス(観光施設)
2) 所在地	掛川市東山 1501 番地の1
3) 事業実施主体	掛川市(掛川市)
4) 設計者	株式会社竹下一級建築士事務所(浜松市)
5) 施工者	株式会社尾崎工務店(掛川市)
6) 施工期間	平成30年9月～令和元年5月
7) 施設概要	木造2階建て
8) 規模(延面積)	建築面積 221.14㎡(1階テラス部分を含む) 延べ床面積 256.79㎡(1階テラス部分を含む)
9) 主な使用樹種	構造材【ヒノキ集成材(4.752㎡)、スギ(47.7551㎡)】 合板(18.523㎡)、ヒノキフリー板(1.507㎡)、メラミン化粧板、 石膏ボード(220㎡)、人工再生木デッキ(398.25㎡) 以上、すべてFSC®認証材
10) 施設の特徴等	掛川市東山地区他に位置する標高532mの小高い山、栗ヶ岳。この山頂の建築は、世界農業遺産認定された「静岡の茶草場農法」の茶畑、遠くに望む富士や南アルプスの山々、そして駿河湾から伊豆半島と、青と緑が織りなす珠玉の風景といった既存価値を増幅し、さらにはそこでの新しい体験価値を創造し得る体感型テラスである。 栗ヶ岳の景観形成と世界農業遺産ビジターセンターとして眼下からのランドマーク性を意識し、建築形態のモチーフとしたのは茶草場農法で使用され地元農家が「かっぽし」と呼ぶ刈り取った草を束ねて干す円錐状の形態。このヴォリュームを2つ並列し、構造的にも機能的にもコアとした。水平デッキ屋根を架け渡し、2階部分は展望デッキ、1階部分はそれを庇とした休憩スペースとしている。そして、構造体にはまさにこの山の一部であったスギ(一部、ヒノキ)を使用し、かっぽしの如く支え組み合わせるようにして構築した。 地元産の木材を使用し、国際認証FSC全体プロジェクト認証取得。全国3例目の公共事例となった。 特徴として、1階にお茶カフェと茶草場農法などを映像とパネルで紹介する多目的ルーム、木々や草花を体感できるグラステラスが設置され、2階には茶畑や遠くの風景が一望できるパノラマテラス、富士山に視界を向ける富士テラス、円形に切り取られた空を見上げる屋外スカイテラスが配されている。

【施設の画像】

①(左)かっぽし型のコアと水平デッキ屋根、②(中)スカイテラス(コア内部)、③(右)パノラマテラスと展望

